



製造中核人材育成事業「工場長養成塾」

～産学連携で自ら気づき、行動する工場長を育成～

「ものづくり」は「かみづくり」

中部地域のモノ作り企業の強さの源泉は、「ひと」と「最大の財産として大切に育ててきたこと」にあります。「ものづくり」は「ひとづくり」。脈々と受け継がれてきた企業文化でもあります。

しかし、近年、企業とともに成長し製造現場を知り尽くした逸材が定年を向かえ現場から去るうとしており、品質を確保しながら製造工程全体を統括できる幹部をOJTだけで育成することは困難という声が多く聞かれます。明日のための「人材」をどのように現場から育成していくか。「工場長養成塾」はこうした企業現場のニーズから生まれました。

工場長を育てるといふ難題

「産学連携 製造中核人材育成事業」(十七、十八年度)として、(財)中部科学技術センターが管理法人となり、名古屋工業大学、(株)豊田自動織機、(株)デンソー技研センターがスクラムを組み、(株)豊



(株)デンソー技研センターでの「実習」

田自動織機の磯谷智生顧問が統括コーディネイトしました。

自動車部品産業の優れた生産・物流管理のノウハウだけでなく、製造現場での問題に自ら気づき、行動する工場長の育成を目指しました。前例の無い挑戦のなか、現役、OBの工場長経験者などプロ中のプロ達の、「自分の経験・ノウハウを何とかして伝えたい!」という熱意が様々な工夫を生みました。

□ 名古屋工業大学での理論

「ゼミ」(四〇時間)

(株)デンソー技研センターの模擬ラインを活用した「実習」(一六時間)

間)、受講生の製造現場を教室とする「実践」(八〇時間)による、ベストミックス。

□ 二十一日、一四八時間と長期にわたり、その約7割が実践型カリキュラム。

□ 工場長経験者などが現場経験・ノウハウを自らしたためたテキスト。

□ 「実践」は、四名一グループの少人数で編成



製造現場を教室とした「実践」

し、グループ毎に工場長経験者などが「チューター」として現場指導。

□ 受講生を送る企業経営者向けの「エグゼクティブコース」を併設し、共に学ぶことにより、受講終了後、経営者が受講生をフォローできる仕掛け。

企業は「工場長養成塾」を待っていた

実証講義に一六社を募集したところ、東海三県を中心に、自動車部品、機械、化学、窯業、繊維、食料品など幅広い業種から計五五社の応募を頂きました。十八年十月の開講以来、NHKではレポート報告され、また、地元新聞には一面に記事掲載されるなど七回も取り上げられ、地域の企業、マスコミの注目を集めています。長期間だから幹部候補を学ばせたい、実践型だから自社の工場長の登竜門としたい、幹部候補に異業種交流もさせたい、というのが経営者の声です。

十九年度から名古屋工業大学が運営

十九年度からは名古屋工業大学の事業として、(株)豊田自動織機、(株)デンソー技研センターとの産学連携により、更に充実されたカリキュラムでスタートします。大学の「科学技術相談」を活用したフォローアップも開始します。「ひとづくり」の高い品質を確保し、地域企業のニーズに 대응していくことが期待されています。